

- **FIJ3か年計画（第2次・第3次）の概要**
- **FIJ第3次 3 か年計画策定の経緯**
- **FIJ第3次 3 か年計画（2025～2027）**

(参考)

- **FIJ第2次3か年計画（2022～2024）の概要・・・P3**
- **FIJ第3次3か年計画（2025～2027）の概要・・・P4～5**

※FIJ第3次3か年計画（本文）は、12～18ページに掲載

第2次3か年計画の目標：「2024年のFIJの姿」

- ①FIJの**ブロック活動**が継続して行われ、推進・実施する体制（全国または地域のステークホルダーとの連携を含む）の構築が進んでいる。
- ②FIJの複数の地域で、**森林の新しい価値の創造の取組**にFIJが参画している。
- ③「森林」・「林業」・「木材」・「山村」・「森林の新しい価値の創造」に関する**会員の調査・研究活動**を推進し、その成果を会員に還元させている。
- ④**全国研修の固定フィールド**が、FIJ会員の研修フィールドとしてだけでなく、多様な学びと交流の場として活用されている。
- ⑤**子ども森林インストラクタープロジェクト**の取組が継続的に運営されている。
- ⑥上記の活動展開を推進するシステム及び体制の構築が進み、FIJの**会員数が安定的に推移**している。
- ⑦2024年時点での、FIJの現状及び課題、課題解決の方法を検討し、**2025年以降の活動展開について検討し、提案**がなされている。

第2次3か年計画の3つの柱

1. 会員同士の交流促進と活動サポート ⇒ オンラインシステムの活用等による魅力あるFIJの活動展開
2. 新たな森林の空間利用の創出及び林業に関する啓発取組 ⇒ 固定フィールドでの新たな活動
3. 学校教育との連携による森林インストラクターの活動の場の拡大 ⇒ 子ども森林インストラクタープロジェクトの推進

現状と課題（2021年末時点）

- ・オンライン会議システムの活用などICT活用により、全国の会員の交流促進や活動のサポートを一層促進するなどにより、FIJの活性化及び資格者の入会率の向上につなげることが必要。
- ・森林・林業の役割の重要性を伝えるための研修固定フィールドを複数のブロックで設定し、全国研修を試行・実施することが必要。併せて、地域連携や新たな森林空間利用の創造に向けた健康・観光・教育の視点での取組を進めていくことが必要。
- ・子ども森林インストラクタープロジェクト等におけるプログラムの高度化、活動事業費の安定的な確保が必要。

第2次3か年計画の計画内容

2022年度

- ・会員交流の促進体制の構築：会報編集部会・会員交流促進（ICT活用）部会の設置・会員のサポート及び交流による調査・研究等の促進
- ・固定フィールドでの研修実施（中部・関西）・複数ブロック（関東・東北等）での森林・林業啓発取組委員会の設置・地域連携研修の検討・観光業連携相談役設置・子ども森林インストラクタープロジェクト・緑の少年団活動活性化プログラム開発

2023年度

- ・多様な（地域、年齢、性別）会員参加による会員交流促進（ICT活用）部会の持続的運営体制構築及び運営財源の確保等・複数ブロックでの研修試行及び実施・観光業及び地域連携の一体的な取組推進・子ども森林インストラクタープロジェクト成果活用体制構築

2024年度

- ・新規資格取得者に対する会員入会率の維持向上・関東・中部・関西固定フィールドでの研修継続・東北での研修試行・地域連携研修及び新たな森林空間利用提案・新たな観光業との連携取組・子ども森林インストラクタープロジェクトの連携体制継続・次期3か年計画（2025～2027）策定

計画内容

2025年度

・会員交流と活動に関わる情報共有の促進：オンライン全国セミナー・座談会・LINE等の活用による会員同士の交流促進・会員の活動事例、調査研究成果の共有・全国研修会の実施（中部・関西）・複数ブロック（関東・東北等）での実現に向けた検討・地域連携研修の検討・子ども森林インストラクタープロジェクトの新規実施地区の探索支援、緑の少年団活動との連携の可能性検討、指導者研修実施に向けた検討

2026年度

・多様な（地域、年齢、性別）会員参加・会員交流と活動に関わる情報共有の促進：「新入会の集い」（継続実施）・全国研修会の実施（関東・東北）・子ども森林インストラクタープロジェクトの緑の少年団等との連携の具体化、新規実施地区の探索支援（継続）、指導者研修試行

2027年度

・活動事例の発表、調査研究に関わる情報共有・関東・中部・関西・東北研修フィールドでの研修継続・地域連携研修及び新たな森林空間利用提案・子ども森林インストラクタープロジェクトの連携体制継続・実務経験者からの情報収集、指導者研修の実施 ・第4次3か年計画（2028～2030）策定

第3次3か年計画の2つの柱

1. 全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進

会員同士の交流を契機に、ブロック活動を推進するとともに、広く全国各地の情報共有により、森林インストラクターの認知度の向上及びFIJの活動の活性化につなげる。

2. 森林環境教育・森林ESDの推進

全国の教育関係機関や緑化関係団体等と連携し、「子ども森林インストラクタープロジェクト」等の活動対象の拡大に取組む。併せて、森林環境教育・森林ESDの実践に向け、地域の実情に配慮しつつ、会員によるプログラム開発や調査・研究活動を推進し、関係団体との連携により指導者等の育成に取組む。

第3次FIJ3か年計画（2025～2027）の概要

第2次3か年計画（2022～2024）の達成状況

目標の①及び④のブロック活動については、関西・中部ブロックは、森林・林業啓発取組委員会が3年間にわたり計画通りの活動を展開し、研修を実施し2025度の全国研修の準備も進めている。東北ブロックについては、1年前倒しで全国研修会を開催した。関東ブロックでは、奥多摩町での現地調査実施、檜原村での企画に取組んだが、活動の実績には至っていない。②の**森林の新しい価値の創造の取組への参画**については、林野庁の森林サービス産業の創出・推進地域・活用に関心がある企業・団体等のプラットフォームとして「Forest Style ネットワーク」に参加したが、具体的な活動に至っていない。③の**森林・林業に関する調査・研究活動**については、（公社）国土緑化推進機構からの委託業務として、『緑の少年団の活性化に向けた活動プログラムの開発業務』に続き、『新たな時代に対応した『緑の少年団』『森林環境教育』のあり方～地域に即した持続可能な活動事例・今後の展開に関する調査業務～』納品に向けて事業を実施中。全国会員の有志を募り、「森林環境教育・森林ESD推進検討委員会」を立ち上げ、研究会を開催。会報に樹木・森林・林業をテーマとする連載を継続。⑤の**子ども森林インストラクタープロジェクトの取組み**については、2022年度10回・2023年度9回・2024年度9回実施し、継続的に運営されている。

⑥の**会員数の安定的な推移**については、会員数は微増に推移して所期の目標を達成している。

現状と課題

・テレワークやオンライン会議システムの活用及びオンラインとリアル併用の併用による、全国レベルでの会員同士の交流推進、会員の研鑽や情報共有の場の確保はFIJの重点課題である。
・子供たちが自然の中での様々な直接体験をする機会が減少する傾向が見られることから、次代を担う人材育成の観点からも、森林環境教育や森林ESDの推進は森林インストラクター活動の重要な柱となる。

「2027年のFIJの姿」 (3年後)

- ① 全国の会員自らが情報交換・交流できる場がある（交流の仕組みや情報ネットワークの構築・維持）。
- ② 森林インストラクター活動に関わる事例発表や調査・研究活動等が行われている。
- ③ 地域ブロックの取組や特徴・特性を活かした研鑽の場が確保され、研修が継続的に行われている。
- ④ 地域に即した「子ども森林インストラクタープロジェクト」活動が拡充している。
- ⑤ FIJの会員数が安定的に推移している。

第3次3か年計画の2つの柱

1. 全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進
2. 森林環境教育・森林ESDの推進

2025年の重点取組事項

1. 会員同士の交流の実現と活動情報の共有
2. 子ども森林インストラクタープロジェクトの新規実施地区の探索支援、緑の少年団活動との連携の可能性検討、指導者研修実施に向けた検討、緑の少年団活動の連携可能性の検討

2026年の重点取組事項

1. 会員同士の多様な交流の実現、関東・東北ブロックでの全国研修会実施
2. 子ども森林インストラクタープロジェクトの緑の少年団等との連携の具体化、新規実施地区の探索支援（継続）、指導者研修試行

2027年の重点取組事項

1. 活動事例、調査・研究成果発表
2. 子ども森林インストラクタープロジェクトと緑の少年団活動の連携実施、指導者研修会の実施
3. 次期3か年計画策定

- **FIJ第3次 3 年計画策定の経緯**
- **FIJ第3次 3 年計画（2025～2027）**

目次

【計画策定の経緯】	8
はじめに	
(1) FIJ第2次3か年計画（2022～2024）の達成状況について	
(2) 第2次3か年計画の達成状況の評価と課題	
【第3次3か年計画（本文）】	12
1. FIJ第3次3か年計画の策定に当たって ～現状と課題～	
2. FIJ第3次3か年計画の2つの柱～全国組織ならではの活動展開	
3. FIJ第3次3か年計画（2025～2027）	
(1) 2025年度計画内容	
(2) 2026年度計画内容	
(3) 2027年度計画内容	
4. 2027年末に目指す「FIJの姿」	
・ 森林インストラクター資格者の全国組織としてのFIJの役割の実現（①～⑤）	

はじめに

(1) FIJ第2次3か年計画(2022~2024)の達成状況について

計画において目標とした「2024年のFIJの姿」①~⑥)の達成状況は、次のとおりであった。

2024年のFIJの姿(次ページ参照)①および④のFIJのブロック活動については、関西・中部ブロックは、森林・林業啓発取組委員会が3年間にわたり計画通り全国研修会を開催し、2025年度の全国研修会の準備も進めている。東北ブロックは予定よりも1年前倒しで全国研修会を開催した。関東ブロックにおける活動については、東京都奥多摩町で2024年3月に現地調査を実施、2024年12月に檜原村での現地検討を予定したが、具体的な取組には至っていない。

②の森林の新しい価値の創造の取組への参画については、林野庁の森林サービス産業の創出・推進地域・活用に関心がある企業・団体等のプラットフォームとしての「Forest Style ネットワーク」に参加申請し登録され、東京都の奥多摩町・檜原村での可能性を構想したが、具体的な進展には至っていない。

③の森林・林業に関する調査・研究活動については、(公社)国土緑化推進機構からの委託業務として、『緑の少年団の活性化に向けた活動プログラムの開発業務(2022.1~2023.5)』を受託。また、現在『新たな時代に対応した『緑の少年団』『森林環境教育』のあり方~地域に即した持続可能な活動事例・今後の展開に関する調査業務~』(2024.1~2025.6)に取組むとともに、「森林環境教育・森林ESD」推進検討委員会を設置し、全国会員との情報共有を図っている。そのほか、FIJ会報2020年4月号以降、3名の会員に依頼して樹木・森林・林業をテーマとする「ステップアップ講座」の連載を開始、また、オンライン全国セミナー(樹木、森林、林業、昆虫)を計26回実施、調査・研究活動の成果を蓄積しており、計画の目標は概ね達成した。

⑤の子ども森林インストラクタープロジェクトの取り組みについては、2022年度10回・2023年度9回・2024年度9回実施し、継続的に運営され、目標は達成した。

⑥の会員数が安定的に推移については、会員数は微増し、安定的に推移しており所期の目標は達成した。

(参考) FIJ第2次3か年計画(2022~2024)の「3つの柱」と「2024年末のFIJの姿」

第2次計画の「3つの柱」～全国組織ならではの活動展開

1. 全国の会員同士の交流促進と活動サポート：オンラインシステム活用等による魅力あるFIJの活動展開
オンライン全国セミナー・座談会・懇談会などを継続的に開催する等により広く会員同士の交流の促進と会員参加による活動展開、また、会員の調査・研究を推進し成果の活用を図る。
2. 新たな森林の空間利用の創出及び林業に関する啓発取組：固定フィールドでの新たな活動
固定的なフィールドにおける全国研修会を企画し開催する。プログラムの企画実施に当たっては、森林生態・生物多様性の保全・地域の歴史や文化・世界の気候変動・SDGsの視点を重視し、全国及び地域の健康・観光・教育にかかるステークホルダーとの協力連携により、森林インストラクターが林業への理解を深めることに力点を置きながら、新たな森林空間利用の創出活動への参画として位置づけ、ブロック主体の活動による取組を進める。
3. 森林環境教育の推進：学校教育との連携及びSDGs実現に資する森林インストラクター活動の場の拡大
森林を活用した質の高い教育の実現(SDG:目標4)とFIJとしての森林インストラクターの活動の場を拡大する観点から、2020年に開始した「子ども森林インストラクタープロジェクト」に継続して取組む。



【2024年のFIJの姿】

- ① FIJのブロック活動が継続して行われ、推進・実施する体制の構築が進んでいる。
- ② FIJの複数の地域で、森林の新しい価値の創造の取組にFIJが参画している。
- ③ 「森林」・「林業」・「木材」・「山村」・「森林の新しい価値の創造」に関する会員の調査・研究活動を推進し、その成果を会員に還元させている。
- ④ 全国研修の固定フィールドが、FIJ会員の研修フィールドとしてだけでなく、多様な学びと交流の場として活用されている。
- ⑤ 子ども森林インストラクタープロジェクトの取組が継続的に運営されている。
- ⑥ 上記の活動展開を推進するシステム及び体制の構築が進み、FIJの会員数が安定的に推移している。
- ⑦ 2024年時点での、FIJの現状及び課題、課題解決の方法を検討し、2025年以降の活動展開について検討し、提案がなされている。

FIJ第2次3か年計画（3つの柱）の達成状況の評価と課題

1. 「全国の会員同士の交流促進と活動サポート」について

コロナ禍で急速に一般化した、オンライン会議システム等ICTの活用により、「新入会員の集い」、「全国オンラインセミナー」、「会員座談会」、「森林環境教育・森林ESD推進検討委員会」、「次期FIJ3か年計画策定会議」などを継続して開催し、全国各地に離れて活動しているFIJの会員同士の交流が生まれ、FIJ及び会員の活動サポート及び潜在している人材についての情報が得られるなどが進むなど、会員の交流促進が達成された。今後とも、魅力あるFIJの発信やFIJの活動活性化に向けた有効なツールとして、ICTの適切かつ有効な活用が重要である。

一方、会員交流促進のための様々な企画を提案、準備、実施に伴う業務が増大しており、適切な実施体制の構築、運営スタッフの確保、実施企画の優先順位による絞込みなどが課題となりつつある

また、「新入会員の集い」がキッカケとなり、気軽に利用できるSNSの活用も始まり、若い世代の会員の新たな活動に展開する可能性もあり、取組みの動向に配慮しつつ、必要に応じて支援も検討していくことが必要。

2. 「新たな森林の空間利用の創出及び林業に関する啓発取組」について

関西・中部ブロックの森林・林業啓発取組委員会の尽力により、実地における全国研修会が継続的に開催され、特に岐阜における川上・川中・川下の林業・林産業、京都における都市近郊の森林の活用状況や滋賀における森林荒廃の歴史と治山事業をテーマとした研修が開催された。さらに、研修後に、オンラインセミナーで研修の開催状況を紹介し、広く会員にその成果を伝える取組みがなされた。

東北ブロックにおいては、津波により壊滅的な被害を受けた宮城県の海岸防災林の復旧状況について、関係機関・団体の協力を得て、計画より1年早く全国研修会を開催し、会員の森林・林業についての啓発取組として成果があった。一方、広大な東北ブロックに対して、FIJ会員数が絶対的に少ないこともあり、ブロック内で全国会の企画を持続的に実施することの困難さを感じられる。このことは、特に全国の人口減少地域全般に共通する課題と考えられ、今後は、FIJのみならず、国及び地方行政・教育機関、中央団体、企業、地域のNPO等との連携による取組みにより対処していくことが必要であると考えられる。

関東ブロックにおける新たな森林空間利用の創出を構想した取組みについては、事前調査の段階に留まっており、実現可能な目標の設定など、関東ブロック内の各都県の地域組織との連携による活動展開も含め、全般的な見直しが必要。¹⁰

3. 「学校教育との連携による森林インストラクターの活動の場の拡大」について

「子ども森林インストラクタープロジェクト」の継続的な実施により、森林インストラクター活動の場の確保については、一定程度成果が認められる。

一方、子ども森林インストラクタープロジェクトの実施地区の多くが固定化しており、新たな地区での実施につながるような取組みが課題といえる。

特に、これまで活動実績が少ない地区でのプロジェクト実施にあたり、参加者を募集確保することが難しいという問題があり、全国で行われている参加者募集方法についての情報整理や地域の「緑の少年団」や野外活動団体等への呼びかけなどの検討・工夫が必要。

活動内容については、森林内での体験活動を前提として実施するが、学校教育との連携という視点だけでなく、森林環境教育や森林内での野外教育、さらに、人間形成という教育全般の目的まで視野を広げ、地域の実情や特性に配慮して企画することが大切であることへの留意が必要。

1. FIJ第3次3か年計画の策定に当たって ～現状と課題～

2020年2月に始まるコロナ禍を経て、テレワークやオンライン会議システムが一般化した。

FIJにおいては、いち早く各種会議のオンライン化を行い、オンラインによる全国セミナーの開始、新入会員の集い、会員懇談会や座談会、全国研修会の開催状況の報告など、また、定時総会のオンライン同時配信などの取組みを進めた。今後もオンラインとリアルを一体的に併用するなどの取組みを進め、会員同士の交流の推進、会員サービスの向上、森林インストラクター活動の活性化につなげていくことが望まれる。また、少子高齢化及び人口減少は、特に大都市圏以外の地域において顕著となっているが、森林インストラクターの人数やその活動についても、同様の傾向がみられる。森林インストラクターの認知度を全国的に高めていくためには、特に、会員数が希薄な地方の視点に立った、会員同士の交流の推進、関係機関や関係団体との連携した活動に注力する必要がある。

上記を踏まえ、会員同士の交流の推進等と会員の研鑽の場の確保、会員活動に関わる情報共有は、3か年計画におけるひとつの重要な柱として、一体的かつ相互補完的に取組んでいくことが必要である。

また、子供たちや教育をめぐる情勢としては、都市部・地方部によらず、コロナ禍を経て、子供同士の野外での遊びや自然の中での様々な直接体験の機会が一層減少する傾向にある。その結果、子供の体力やバランス感覚の低下、自然環境や生きものとの関わりの希薄化、結果としての次代を担う人としての態度や技能の獲得、人格の形成への影響などが心配されており、このような現状に配慮した森林環境教育や森林ESDの推進は、森林インストラクター活動の重要な活動の柱となる。

森林インストラクターを巡る、以上の現状と課題から、FIJ第3次3か年計画（2025～2027）における重点項目として、①全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進、②森林環境教育・森林ESDの推進を「2つの柱」として定め、次のとおりとする。

2. 第3次3か年計画の「2つの柱」～全国組織ならではの取組み

①全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進

オンライン全国セミナー・全国研修会・座談会・懇談会などを継続的に開催する。さらに、LINE等の更なる活用により、情報共有を図り、会員同士の交流を促進する。

また、会員同士の交流を図り、FIJの様々な取組みや会員による活動情報、調査・研究活動に関わる情報等の共有を促進する。

もって、会員同士の交流を契機に、ブロック活動を推進するとともに、広く全国各地の情報共有により、森林インストラクターの認知度の向上及びFIJの活動の活性化につなげる。

②森林環境教育・森林ESDの推進

全国の教育関係機関や緑化関係団体等と連携し、「子ども森林インストラクタープロジェクト」等の活動対象の拡大に取り組む。

併せて、森林環境教育・森林ESDの実践に向け、地域の実情に配慮しつつ、会員によるプログラム開発や調査・研究活動を推進し、関係団体との連携により指導者等の育成に取り組む。

※「森林環境教育・森林ESD」の視点を踏まえた取組みを進める理由

○ 学校教育との関連においては、森林では、発達段階に応じて、体験学習や調べ学習、課題解決学習等の多様な探究学習を行うことが可能であり、学習テーマとして森林に着目することにより、新たな学習指導要領における資質能力主義に沿った学習の実現が可能である。また、社会科・理科に留まらず、様々な教科において、森林に関わる要素が教材として採用されていることから、教科等横断的な学習ができ、森林ESDの視点からの取組みの実践といえ、同時に、広く森林環境教育及び野外教育の目的の実現につながる。

○ 森林分野との関連においては、森林環境教育を推進する観点から、学校教育或いは社会教育と連携・協働しつつ、出前授業や緑の少年団の活動など、広く教育全般について支援を担おうとする多くの取組事例が見られ、森林インストラクター資格者の指導者としての役割が期待されている。

(参考) 野外教育の定義と森林体験活動・森林環境教育・新学習指導要領・森林ESD

「野外教育」の定義、ドナルドソンの言葉、「Outdoor Education is education in, about, and for the outdoors./ 野外における (in)、野外についての (about)、野外のための (for) 教育」

(井上真理子・杉浦克明編 2024.6海青社発行『自然とともにある森林教育学』P53)

森林環境教育についても、上記のドナルドソンの「野外教育」の定義に当てはめて理解することができる

また、以下は、公益社団法人国土緑化推進機構発行『新学習指導要領のもとでの森林体験活動の展開』P12 (京都教育大学教授 山下宏文監修発表資料より寺嶋嘉春ほか執筆) から引用

green.or.jp/archives//media-download/559/1bcc2742d525953d/PDF/

従来から、「森林環境教育」については、in、about、forというとらえ方がされている

- ・体験主義 (in) : 森林での体験そのものが目的 → 感性を育てる
- ・知識主義 (about) : 森林について正しく知ることが目的 → 知識をもつ
- ・実践主義 (for) : 森林で奉仕活動することが目的 → 森林整備に参加する
- ・資質・能力主義 (in, about, for) : 森林について知識・能力・実践を統合することが目的

今日的な「森林環境教育」のあり方は、資質・能力主義といえる。森林環境教育は、森林についての「体験 (in)」、「知識・思考 (about)」、「実践 (for)」を統合する学びでなければならない

したがって、本来の森林環境教育のあり方は、新学習指導要領が求める「資質・能力主義」や「主体的・対話的で深い学び」という理念とも合致すると言える

さらに、このような「森林環境教育」のとらえ方は、ESD (Education for Sustainable Development 「持続可能な開発のための教育」) と合致するので、「森林等」をテーマとする活動は、ESDの取組を進めていくことに他ならないともいえる

3. FIJ第3次3か年計画（2025～2027）

2025年度

1. 全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進

- ・ オンライン全国セミナー等の継続開催
コロナ禍を経て一般化したオンライン会議システムを活用し、オンライン全国セミナー・座談会・懇談会等を継続して開催し、全国各地の会員の交流の場、研鑽の場とする。企画運営に当たっては、広く会員の提案・参加が得られるよう検討する。
- ・ LINE等の更なる活用による会員同士の交流について
新規資格取得会員等の交流を推進するため、オンラインによる「新入会員の集い」を継続実施するとともに、2024、2025年の新入会員によるLINEグループでの交流の動向を参考にしつつ、広く既会員を含む多様な交流促進について検討を進める。
- ・ 会員の活動事例、調査・研究に関わる情報共有について
全国会員による顕著な活動事例、調査・研究活動の情報収集し、活動情報や調査・研究成果を共有する場について試行する。
- ・ 全国研修会（森林・林業啓発取組の推進）
 - ・ 関西・中部ブロックでの全国研修会を継続実施
 - ・ 東北ブロックにおける26年度研修実施に向けた検討
 - ・ 関東ブロックにおける研修実施に向けた検討
 - ・ 上記以外のブロックでの研修実施の可能性検討

2. 森林環境教育・森林ESDの推進

- ・ 「子ども森林インストラクタープロジェクト」等の活動
 - ・ 全国の教育関係機関や緑の少年団等との連携に向けた可能性検討
 - ・ 新規実施地区の探索と支援
 - ・ オンラインによる情報の交換を図る
- ・ 森林環境教育・森林ESDの実践に向けた指導者研修
 - ・ 実務経験者からの情報収集、指導者研修に向けた実施体制の検討

2026年度

1. 全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進

- ・ オンライン全国セミナー・座談会・懇談会
 - ・ 交流、研鑽のための継続開催
- ・ LINE等の更なる活用による会員同士の交流促進
 - ・ 新規資格取得会員の会員交流の推進、「新入会員の集い」は継続実施（2023、2024の合格会員のLINEグループ）（継続）
 - ・ 上記LINEグループ外の既存会員の交流促進に向けた検討（継続）
- ・ 活動事例の発表、調査・研究に関わる情報共有
 - ・ 発表の場、情報共有の場の検討と試行を踏まえた見直し、および実施準備
- ・ 全国研修会（森林・林業啓発取組の推進）
 - ・ 関西・中部ブロックでの全国研修会を継続実施（継続）
 - ・ 東北ブロックにおける研修実施
 - ・ 関東ブロックにおける研修実施
 - ・ 上記以外のブロックでの研修実施の可能性検討、および試行

2. 森林環境教育・森林ESDの推進

- ・ 「子ども森林インストラクタープロジェクト」等の活動
 - ・ 全国の教育関係機関や緑の少年団等との連携の具体化
 - ・ 新規実施地区の探索と支援（継続）
- ・ 森林環境教育・森林ESDの実践に向けた指導者研修
 - ・ 実務経験者からの情報収集、指導者研修の試行

2027年度

1. 全国の会員の交流と活動に関わる情報共有の促進

- ・ オンライン全国セミナー・座談会・懇談会
 - ・ 交流、研鑽のための継続開催（継続）
- ・ LINE等の更なる活用による会員同士の交流促進
 - ・ 新規資格取得会員の会員交流の推進、「新入会員の集い」は継続実施（2023、2024の合格会員のLINEグループ）（継続）
 - ・ 会員同士の交流の定着
- ・ 活動事例の発表、調査・研究に関わる情報共有
 - ・ 発表の場、情報共有の場の確立（推進体制含む）
- ・ 全国研修会（森林・林業啓発取組の推進）
 - ・ 関西・中部ブロックでの全国研修会を継続実施（継続）
 - ・ 東北ブロックでの全国研修会を継続実施
 - ・ 関東ブロックでの全国研修会を継続実施
 - ・ 上記以外のブロックでの研修実施の可能性検討、および試行（継続）

2. 森林環境教育・森林ESDの推進

- ・ 「子ども森林インストラクタープロジェクト」等の活動
 - ・ 全国の教育関係機関や緑の少年団等との連携の実施、定着、および拡大
 - ・ 新規実施地区での実施
- ・ 森林環境教育・森林ESDの実践に向けた指導者研修
 - ・ 実務経験者からの情報収集、指導者研修の実現

3. FIJ第4次3か年計画（2028～2030）の策定

2027年（3年後）のFIJの姿 森林インストラクター資格者の全国組織としてのFIJの役割の実現

- ① 全国の会員自らが情報交換・交流できる場がある（交流の仕組みや情報ネットワークの構築・維持）
- ② 森林インストラクター活動に関わる事例発表や調査・研究活動等が行われている
- ③ 地域ブロックの取組や特徴・特性を活かした研鑽の場が確保され、研修が継続的に行われている
- ④ 地域に即した「子ども森林インストラクタープロジェクト」活動が拡充している
- ⑤ FIJの会員数が安定的に推移している